



快適な水辺環境の形成、緊急輸送道路、新ごみ処理施設について
小林 修（市民と共に働く会）

問 快適な水辺環境の形成
忍川、旧忍川（さき
たま調節池）、酒巻導水路が埼玉県の川の再生プロジェクトに選定され、親水護岸、デッキ、遊歩道などの整備が進められ、ポタリングによる市内回遊性の向上のほか、水質改善や水辺生態にも配慮した川づくりが行われている。本年度の事業内容は、来年度以降の事業予定は、

答 本年度の酒巻導水路の整備をもって本プロジェクトは完了する予定である。来年度以降は、整備された水辺空間の活用や魅力発信に引き続き取り組んでいく。なお、来年度以降の新たな川の再生事業は、現在、県において検討中である。

問 緊急輸送道路対策
南大通り線は、救命活動や物資輸送など、重要な役割を担う指定道路に定めているが、忍川に

答 架かる吾妻橋は、昭和55年以前の基準で建設されている。早急に耐震補強を実施すべきと考えるが、吾妻橋は、平成27年度に延命化を目的とした修繕工事を実施したところである。耐震補強は現在予定していないが、橋梁長寿命化修繕計画の更新に合わせて調整したい。

問 新ごみ処理施設建設
羽生市との勉強会について、どのような内容で、いつまで行つのか。また、早期実現に向けた取り組みは。

答 環境省が作成した広域化・集約化に係る手引きを参考に、組織体制、ごみの分別区分、整備するごみ処理施設、整備スケジュールなどについて、一定の結論が得られるまで実施する。今後は工程管理に細心の注意を払い、早期の施設整備を目指していく。



本市は過疎化の歯止めにかかり組んでいるか
細谷 美恵子（発言と行動する会）

第6次総合振興計画や学校統廃合を計画する前に、加速する人口減少を止める努力があるべきだが、具体策が見えない。

問 本市の15地区の人口を、平成25年と現在で比べると、人口減少率の大きい順に、須加、北河原、下忍、忍、南河原と続く。この認識はあるか。

答 本市は県内でも人口減少が早く進んでいる。

問 秩父鉄道の熊谷駅から羽生駅間には7駅あるが、周辺が市街化区域でないのは武州荒木駅だけである。羽生市など中心多極化の例もあるが。

答 忍地区など中心部の人口減少がこれ以上進まないためには、新たに市街地を設けず人口が拡散しないようにしたい。

問 病院や買物に徒歩で行くことができない場所は、もはやコンパクトシティとは言えない。また、

総合振興計画案では、北部を集落田園ゾーンに設定し、さしたる活性化策もない。空き家バンクをもっと活用し、農地の下限面積を引き下げ農地付空き家として売買することなど考えはないのか。

答 遊休農地の解消、新規就農者の定住促進のためには、有用な施策であり研究していきたい。

問 現在の通学区割は複雑でいびつな形である。同じ小学校でも進学時に中学校が分かれてしまう例が複数ある。これでは「小中一貫教育、9年を通じて切れ目なく」は不可能ではないか。

答 完全な形では難しい。今後、新規の通学区域等審議会を検討していく。

問 北部には依然10年後、義務教育学校計画が残っている。統合予定の北小との話し合いは。

答 まだ進んでいない。



入札や随意契約の把握、チエックはされているか
斉藤 博美（日本共産党）

問 公共調達については、財源が税金で賄われるため、売買や契約などは、経済性や公平性、透明性を確保する必要から原則、一般競争入札とされている。本市では建設工事に限って指名入札が圧倒的に多く、物品調達に至っては一般競争入札が全く行われていないがなぜか。

答 これまで要綱を策定していなかったが、物品等については令和2年度から物品売買等試行要綱を制定し、一般競争入札を試行的に行っている。

問 本市は入札にしても総額、随意契約にしても総額、内訳がすぐに出てこない。普段から全庁的に件数や内容を把握しているのか。

答 真摯に受け止め、今後は改善に努める。

問 随意契約が20億円以上あるが中身が不透明である。予定価格の算定から全て各担当課が担っているが起案文書に添付するチエックシートに随意契約に至る理由の付記がないものもある。あまりにもずさんではないのか。

答 担当課が長年にわたり、理由なしに同じ業者と随意契約している事態が発生してしまった。契約検査課が主導して、徹底していく。

問 担当課レベルではチエックがされていない。内々でのチエックでは結局甘くなるためさらに別の部署でのチエックが必要である。随意契約も契約検査課で一括管理し窓口とすべきではないのか。

答 自治法施行令に該当しない随意契約はあり得ないものであり、予定価格の示しのない契約についても適正とは言えず、今後十分に指導していく。随意契約においても契約検査課を通すべきであると考えている。